

第4回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー 子供と若者の教育についての対話

2012年11月10、11日（土・日）

伊達市役所シルクホール（024-575-1113, <http://www.city.date.fukushima.jp/index.html>）

福島駅より阿武隈急行で大泉駅下車、路線に沿って南西に徒歩5分

発起人

国際放射線防護委員会（ICRP）

協力と援助

伊達市、放射線安全フォーラム、福島のエートス、福島県立医科大学

ベラルーシ緊急事態省チェルノブイル部、

経済協力開発機構・放射線防護公衆衛生委員会、フランス放射線防護・核安全研究所、
ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全局

同時通訳

ディプロマット社（平野加奈江、町田公代）

経過と目的

国際放射線防護委員会（ICRP）は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作りだし、その手段を提供する責任があることを強調している。

この観点に基づき、ICRPは、2011年秋に会合を開催し、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表などが、福島原発事故の影響をうけた地域の長期の回復に対する挑戦についてその方策をさぐるためのダイアログセミナーを行った。

第一回のダイアログセミナーは、2011年11月26日と27日の両日にわたり、福島県庁の会議室で開催された。ここで参加者は、安全な生活条件と高い品質の作物の生産、そして外部地域との連帯を介した地域コミュニティの再生の重要性を確認した。さらに参加者は、人々が事故の状況を理解しさらに評価することを通じて影響をうけた地域での生活からうける放射線被曝を低減するために必要な放射線防護の文化を醸成することの重要性を確認した。そして参加者は、日本政府と国際組織に、以下を訴えた。

一地域と国内のステークホルダーを糾合し、生活の状況の改善に共同して当たることを追求する。

一国際的な経験を生かして、種々のプロジェクトを立ち上げるための条件と方法を明らかにするため、ダイアログを継続する。

第二回の伊達ダイアログセミナーは、2012年2月25日と26日の両日にわたり、伊達市保原市民センターと保原スカイパレスで開催された。この会合の目的は、福島放射線の状況の改善について討論し、その障害になる問題点を明らかにし、市民の生活を改

善する道をさぐることであった。参加者は、人々の心の問題、とりわけ住民が尊厳を保ちうることの重要性、そして地域、国内、国際を通じた連帯を強調した。参加者は、住民がどこでどのように被ばくしたかなどを人々が知るため、放射線の状況についてさらに詳細な情報を必要としていることを、認識した。そして、参加者は以下の勧告を採用した。

- 一地域のコミュニティと住民の生活条件を改善するためのプロジェクトを支援する機構を開発する。
- 一回復に向けての活動に関する決定には、地域の生活からえられた知識に基づいた優先順位を反映することへの住民の期待を支援し、さらに現時点および将来における住民の関心事を支援する。
- 一関心をもつすべての組織の相互理解と協力の涵養し、生活の状況の改善のための活動の評価を共有するため、ダイアログを継続する。

第三回ダイアログセミナーでは、2012年夏の始めにおける放射線状況を論じ、これを改善するためにステークホルダーの方々の最近の経験の共有に努めた。とりわけ困難な問題である食品の汚染について、その複雑な状況を理解し、異なる、また時には対立する利害関係をもつステークホルダーとともに、状況改善の道を探った。その結果、以下の結論に達した。

- 一線量モニターの戦略と管理方法の開発を行うことで、農家に生産物の放射線に関する質の管理を可能とさせ、これを通じて、消費者の信頼を再度獲得する
- 一人々が各自で判断することを助けるため、個人の内部被ばくと外部被ばくのモニターの努力を継続し、情報と機器を供与する
- 一関与するすべての人々・組織（生産者、市場関係者、消費者）が食品についての恒久的なダイアログを継続しうるために、フォーラムを設ける
- 一子供達が放射線防護の文化を生み出すのに、両親、祖父母、そして教師が関与することを推進する
- 一国内および海外のステークホルダーとのダイアログと協力を強化する

第四回ダイアログセミナーでは、これまで3回のダイアログを通して得られた状況判断を踏まえて、地域の次代をになう子供の教育を取り上げる。二日にわたる会合では、まずノルウェーとベラルーシにおけるチェルノブイル事故の教訓を共有する。そして事故以来1年半にわたって続けられてきた福島教育現場でのいろいろな取組みについて知識を共有する。ついでこれらを踏まえて、対話を通じて問題点の発掘を行い、今後の福島での教育の方向を探る。

会合の進め方

同時通訳：英語と日本語の同時通訳をイヤホンで聞くことができます。

2種類のセッション

午前のセッション：共有すべき事実関係についての発表です。

午後のセッション：教育についての関係者の対話を行います。

会合関連サイト

ICRP 通信：<http://icrp-tsushin.jp/>

福島のエートス：<http://ethos-fukushima.blogspot.jp/>

プログラム

第1日目 11月10日(土)

全体司会：ジャック・ロシヤール、多田順一郎

9:30-10:00 開会

湯田健一伊達市教育長、ジャック・ロシヤール氏による歓迎の挨拶
国内・海外参加者による自己紹介(各自1分で名前、専門、経験)

10:00-10:30 セッション1 プログレスレポート

福島産物の放射性セシウムレベルの改善について(15分)
佐藤利松(JA新ふくしま)
福島産物の流通に必要とされる情報発信(15分)
秋山宏次郎(東京の消費者)

10:30-11:50 セッション2 教育に関するチェルノブイルでの過去の経験

ノルウエーにおけるセシウム汚染と教育(30分)
デボラ・オウグトン(ノルウエー)、
ベラルーシ教師による汚染地域に住むための放射線防護文化教育(30分)
オレグ・ソボレフ(ベラルーシ緊急事態省チェルノブイル部)
ノルウエーとベラルーシで見たこと、感じたこと(20分)
安東量子(福島のエートス)

11:50-13:10 セッション3 子供と少年の教育：中学校では

郡山市の中学校における放射線教育の実践(30分)
佐々木清(郡山明健中学校)
中学校理科における放射線教育の方向性(30分)
高島勇二(東京練馬区立開進第一中学校)
日本の学校教育における問題(20分)
伴信彦(東京医療保健大学)

13:10-14:00 昼食

14:00-16:00 セッション4 子供と若者の教育についての対話(第一ステップ)

司会と書記：ジャック・ロシヤール、デボラ・オーグトン、テリー・シュナイダー

パネル討論参加者

大学： 吉田浩子(東北大学)
伴信彦(東京医療保健大学)
水野義之(京都女子大学)
NPO、他： 安東量子(エートス福島、いわき)
遠藤真也(末続ふるさとを守る会)
秋山宏次郎(東京)
佐藤利松(JA新ふくしま)
小学校教育： 勝見五月(伊達市こども支援課)

渡辺尚子（須賀川市柏城小学校）
大越一也（飯舘飯樋小学校長）
大河内敏栄（飯舘村 PTA 会長）
佐々木清（郡山明健中学）
高島勇二（東京練馬区立開進第一中学）
八巻俊憲（田村高校）
報道： 早川正也（福島民報）
菊池克彦（福島民友）
大森真（テレビュー福島）
梶原みずほ（朝日新聞）

16:00 - 16:30 コーヒーブレイク

16:30 - 16:45 報告担当者によるまとめ

16:45 - 17:30 総合討論

17:45 - 20:00: レセプション 伊達みらいホール（保原駅前）

<https://plus.google.com/114257106394392253243/about?gl=jp&hl=ja#114257106394392253243/about?gl=jp&hl=ja>

第 2 日 1 1 月 1 1 日（日）

09:00-9:30 開会

司会：ジャック・ロシヤール、多田順一郎
新規参加者の自己紹介（各 1 分で名前、専門、経験）
第 1 日目のまとめ

09:30-12:10 セッション 5 子供と少年の教育：小学校教育、そして地域の伝統

国の放射線教育と文部省副読本（20 分）

吉田浩子（東北大学）

川俣町の小学校では

遠藤真理子（川俣小学校）（20 分）

池田精一郎（山木屋小学校）（40 分）

10:50 - 11:00: コーヒーブレイク

飯舘の小学校では（30 分）

広瀬要人（飯舘村教育長）

伝統文化の継承：霊山太鼓と地域の子供（20 分）

大友靖子（伊達市霊山）

放射線教育の課題 ～理系・文系問題からみた教育モデル～（20 分）

水野義之（京都女子大）

12:10 - 13:00: 昼食

13:00 - 15:00 セッション 6 子供と若者の教育についての対話（第二ステップ）

司会と書記：ジャック・ロシャール、デボラ・オーグトン、テリー・シュナイダー

パネル討論参加者

- 大学： 吉田浩子（東北大学）
伴信彦（東京医療保健大学）
水野義之（京都女子大学）
- NPO、一般：安東量子（エートス福島、いわき）
遠藤真也（末続ふるさとを守る会）
菅野義樹（飯舘村）
秋山宏次郎（東京）
大友靖子（伊達市霊山、伊達）
佐藤利松（JA 新ふくしま、福島）
- 学校教育： 勝見五月（伊達市こども支援課、伊達）
遠藤真理子（川俣小学校、川俣）
池田精一郎（山木屋小学校、川俣）
佐々木清（郡山明健中学、郡山）
広瀬要人（飯舘村教育長、飯舘）
八巻俊憲（田村高校、田村）
- 報道： 早川正也（福島民報、福島）
菊池克彦（福島民友、福島）
大森真（テレビュー福島、福島）
梶原みずほ（朝日新聞、東京）

15:00 - 15:30 コーヒーブレイク

15:30 - 15:45 報告担当者によるまとめ

15:45 - 16:15 総合討論

16:15 - 17:00 まとめと勧告

17:00 - 17:30: 閉会

第4回ダイアログとその先に見えるもの：テッド・ラゾ（OECD/NEA）
ジャック・ロシャールと湯田教育長による閉会の挨拶